

横浜らしさを育む
歴史を生かしたまちづくりーその1

(都市デザイン活動50年)
ー 前半25年の取組み ー

1, 自己紹介と都市デザイン活動のはじまり

西 脇 敏 夫
都市デザイナー・元横浜市都市デザイン室長

〈 横浜都市デザイン50周年記念事業:都市デザインを「知る」講演会 〉

自己紹介

1939 東京生
早稲田大学大学院 建築計画修士
1965-70 大高正人 建築設計事務所
1971 -76 武 基雄 建築計画研究所
1976-99 横浜市役所
アーバンデザイン担当主査
横浜新都市センター(出向)
都市デザイン室長
都市企画部長
都心部整備部長
99-2006 佐世保市役所
理事(都市デザイン)



港北NTセンター地区
基本設計



多摩NT自然地形案
「大高正人の仕事」より

日本の「都市デザイン」の取組みは横浜市から始まった

都市づくりの目標に沿って ①公共施設の「計画と事業」 ②民間施設の「規制と誘導」とともに ③都市空間の質を高める「都市デザイン」の活動を行った

機能性や経済性を重視する街づくりが進められるなかで、社会的・経済的に弱い立場にある七つの価値*を擁護し、個性と魅力ある都市空間を具体的に実現した

* 自然・歴史・緑・水辺・歩行者・広場・美しさ

都市デザインは当時の都市計画行政にはない取組みで、やってはいけないこととさえ言われたが、横浜市は街づくりに必要不可欠な取組みと考え活動を続けた

その方法は、法律や条例などはないが、「都市デザイン室」の立場と人材で活動、職員が関係者と協議しながら、デザイン力^(りょく)によって調整を実践した

市民の理解を得るために まず 魅力ある都市空間を 具体的に実現して見せた

「関内地区」の取組み

緑の軸線構想 「大通り公園」「くすのき広場」

商業の軸線構想 「馬車道」「吉田橋復元」

山下公園周辺地区歩行者空間

都心プロムナード

歴史的建築物 「旧英国領事館」「旧英7番館」

「山手地区」の取組み

山手地区景観風致保全要綱(1972)

港の見える丘公園地区 「大佛記念館」「近代文学館」「霧笛橋」

歴史的建築物 「イギリス館」「山手資料館」



まちづくりを進めるには
その街の「まちづくりの歴史」を学ばなければ

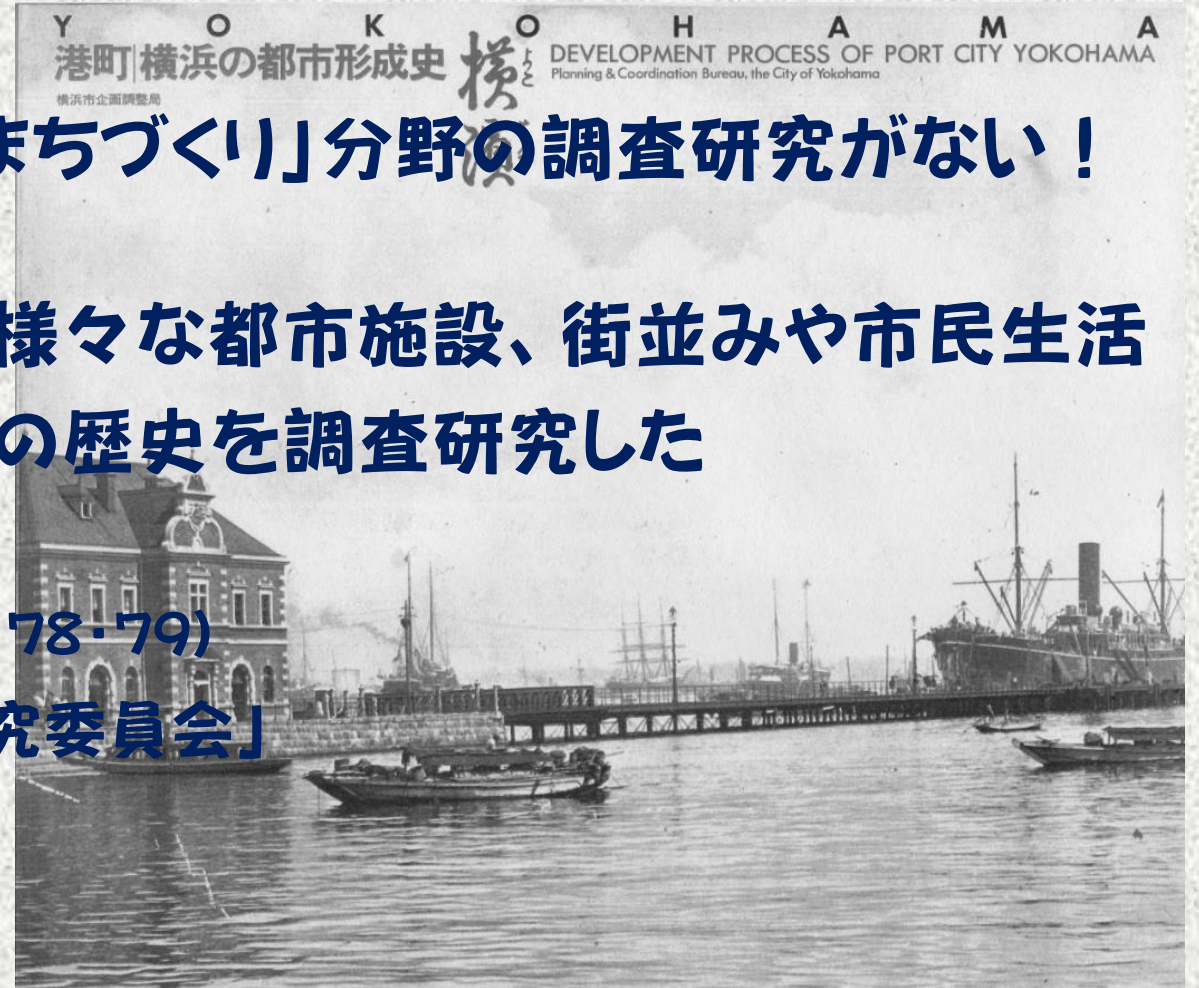
様々な分野の歴史研究はあるが、「まちづくり」分野の調査研究がない！

横浜の中心部について、社会経済や様々な都市施設、街並みや市民生活などを総合的に捉えた「まちづくり」の歴史を調査研究した

「港町/横浜都市形成史」調査(1977・78・79)

日本都市計画学会「都市形成史調査研究委員会」

「港町/横浜都市形成史」出版(1981)



「港町 横浜」の歴史

日米和親条約 (1854・安政元年)

日米修好通商条約 (1858・安政5年)

「横浜村」が開港場

「関内地区」が埋立てにより誕生

「山手地区」が居留地 (1867・慶応3年)

「関内地区」が「港町横浜」の都心部として発展

「関東大震災 (1923)」と「戦災 (1945)」による二度の破壊

「横浜駅地区」の急激な成長

「関内地区」と「横浜駅地区」を結ぶ「みなとみらい地区」の誕生



「港町 横浜」の歴史を生かしたまちづくり

「山下公園地区」「大栈橋」「日本大通り地区」を結ぶ「開港広場」

「旧英国領事館 (S6)」 買収

「横浜開港資料館」 開館 (1981)

側面の「道路ロータリー」を「広場公園」に改造

「開港広場」 誕生 (1982)

工事中「レンガ造下水道マンホール」を発見、保存、公開

「海岸教会」「港湾合同庁舎」「シルクセンター」の色彩調整

「横浜海岸教会」 認定歴史的建造物 (1989)

「横浜海岸教会」との間の民地を買収

「開港広場」 完成 (1991)



「港町 横浜」の歴史を生かしたまちづくり 「山下公園地区」「山手地区」を結ぶ「人形の家」と「歩行者デッキ」

無関係に進行中の複数の事業を合体

「フランス橋」(1984)

「人形の家」(1986)

「臨港鉄道線路」撤去・「地下ポンプ場」建設

「ポーリン橋」(1989)

「世界の広場」(1989)



「港町 横浜」の歴史を生かしたまちづくり 「道路の愛称」を「道路の名称」に

昔から呼ばれている道の「愛称」を正式な「名称」にし
その標識を設置する「道路愛称事業」(1972～)

関内地区(格子状の道路網)

山手地区(尾根の「山手本通り」から下る坂道)



「港町 横浜」の歴史を生かしたまちづくり 「ライトアップ」

夜景の演出を図るためランドマークになる施設を
照明する「ライトアップ事業」(1986～)

関内地区の歴史的建築物を中心にライトアップ

